

# CURE-KOBE

## CURE-KOBEとは

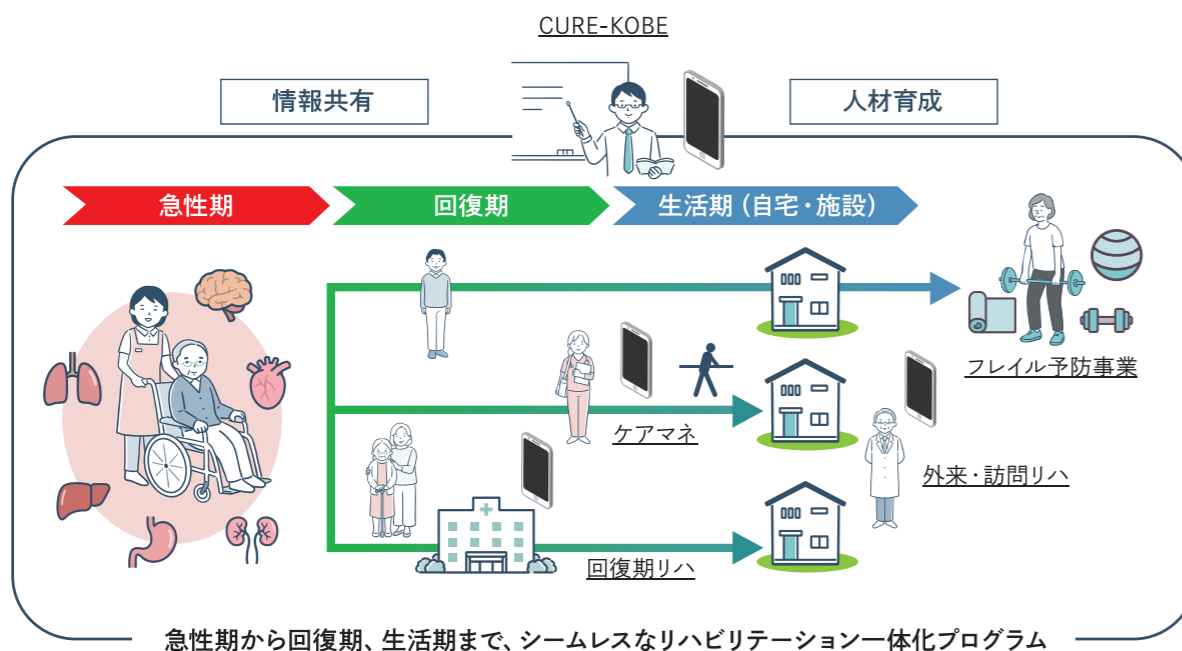
- CURE-KOBEは「神戸地域一体化リハビリテーションコンソーシアム」の通称であり、高齢者の生活の質の向上及び健康寿命の延伸のため、疾患を問わず、急性期から回復期、生活期へとシームレスな一体化プログラムを運用し、リハビリテーションを軸として多職種が介入した、地域包括ケアを実現することを目的としています。
- 神戸在宅医療・介護推進財団と神戸市が事務局となり、医療・介護の専門職団体や有識者とともにオール神戸の体制で取り組んでいます。



具体的な取り組み

## 1 一体化プログラムの構築・運用

急性期から回復期、生活期までを一体化し、切れ目のないリハビリテーションを提供します。身体機能評価に加え、患者報告アウトカム（PRO：Patient-Reported Outcome）を標準評価として導入し、医療者視点の評価と患者視点の評価を統合して管理します。これにより、治療の「量」のみでなく、社会参加まで見据えた生活の「質」に着目し、患者中心のリハビリテーションを実現します。



### メリット

- ▶ 疾患を問わず患者の重症度にあわせて適切なリハビリテーションが提供できます。

具体的な取り組み

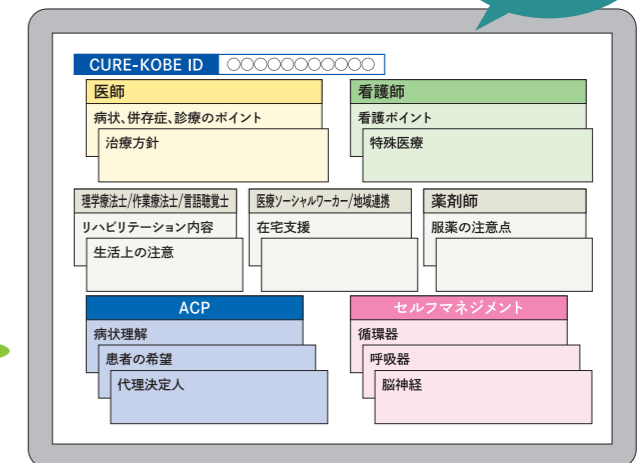
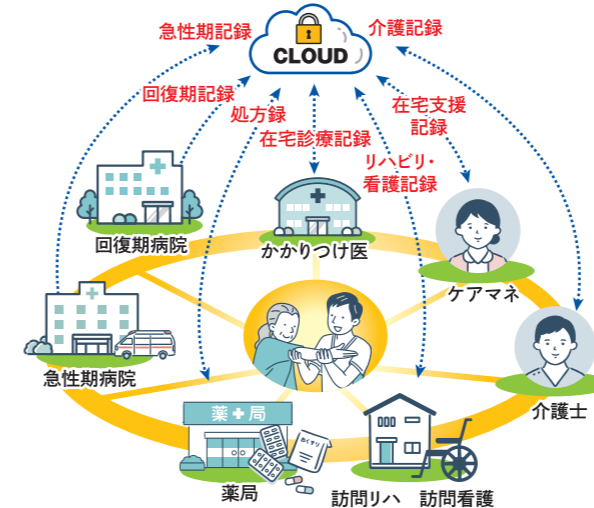
## 2 ICTを活用したシームレスな情報共有



一体化プログラムの運用にあたっては、クラウド型EHRを活用し、急性期から回復期、生活期までのシームレスな情報共有や多職種連携を図ります。

※EHR（Electronic Health Record：電子健康記録）：  
個人の医療情報を電子的に記録し、異なる医療機関で横断的にその情報を共有・活用する仕組み

多職種間で「診る」「連絡する」ポイントを共有できます。



### メリット

- ▶ 病院の費用負担なくクラウド型EHRを導入でき、多職種間の情報共有やリハビリテーションの経過の一元管理が可能になります。
- ▶ 患者自身が病態や回復の見通しを理解することで、生活習慣の改善等の行動変容をうながすことができます。
- ▶ 心不全再入院予防継続管理料や介護支援専門員連携加算等の算定要件を満たしやすくなり、地域連携の強化につながります。

具体的な取り組み

## 3 医療スタッフの育成と相互連携



適切なリハビリテーション医療を担えるよう、兵庫県内に在勤の方（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医師・看護師・地域連携担当職等）が無料で受講できるWeb・実地での研修を実施しています。

### メリット

- ▶ 受講登録をいただくと、研修会等のアーカイブ動画がいつでもオンラインで視聴できます。
- ▶ 研修会・講演会の情報やCURE-KOBEに関する情報をメール等でお送りします。